

細江カトリック教会だより

7月号

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

安息日を守ること

新型コロナウイルスがようやく終息に向かい始めたと思った矢先、東京を中心とした首都圏で第二波の到来を思わせる感染拡大が報告され、それに追い打ちをかけるように、梅雨前線の停滞による大雨の被害が九州地方を襲ったことが伝えられました。洪水や浸水によって、先祖から大事に守ってきた家や財産を失った人、田畑が水につかって収穫前の作物をすべて奪われた人、お年寄りを助けることができなかった痛みに苦しむ人、それにも関わらず、立ち上がろうとする勇気を行動に表す人々、自分の生活の心配をよそに支援に駆けつける人々、その一つ一つの行動に心を打たれたのは自分だけではないでしょう。

幸い、下関の地はコロナの感染拡大を免れ、大雨による被害も受けず、何とか教会活動を再開できたことをまずは感謝しなければなりません。感染防止のための様々な措置がなされていますが、去る7月5日には、広島教区の他のすべての教会に先駆けて、白浜司教の公式訪問を、実施することができました。堅信の恵みを受けられた方々、聖体授与や集会祭儀司会の奉仕職の任命を受けられた方々とともに、不自由な中でも、あらたな気持ちでこれからの日々を過ごしてまいりましょう。

仕事に出かけることができない、学校にも行けない、教会のミサもない、集会も開けない、そんな状況の中で、イスラエルの民が大事に守ってきた安息日の掟のことを思い出された方がいるでしょうか。安息日の掟は、創造の業を終えられた神に感謝をささげるため、(出エジプト記20章)、また、イスラエルの民をエジプトの圧制から導き出された神に感謝をささげる日(申命記5章)として守るよう定められたものです。どちらの意味にしても、週に一日、一切の仕事の手を休め、すべてが神の手からいただくものであることを心に刻む

よう勧められています。休むことをせず、ひたすら働くことでいつの間にか、自分の労働、自分の力に過信することを戒める意味があることも読み取れます。教会の中で、主の復活を記念する「主の日」として

定められた日をもとに祝えないことで、安息日の意味をあらためて考えたらどうでしょう。イスラエルの民が、幾多の艱難を乗り越えて、民族としてのアイデンティティーを保ち続けることができた一つの理由は、この安息日の守りにあったといえ言ひすぎでしょうか。コロナ禍が過ぎ去り、平常の生活に戻ったとき、否、今日から、「主の日」を、すべてを主の御手からいただくものであることを肝に銘じる日、生活の中に、神のための場所を残す「余白の日」、体だけでなく、人間全体が憩うことので



きる、まことの「安息の日」として大事にしてゆけたら、と願っています。

英隆一朗『疫病の中で、私たちは安息する』（福音宣教2020年7月号）参照

作道 宗三 神父



地区だより Ⅲ

新地筋川地区

コロナ禍の中、自粛生活を強いられて、教会にも行けなくなりました。

どうしても必要な病院やスーパーでの買い物しか外出できず、極力自宅で過ごしていました。

空いている時間を何をしようか考えた末、家の片づけをすることにしました。おもちゃや本、工作等々、結構な量がありました。その中に、子どもたちの写真(小さい頃からの分)が見つかりました。年代別、個人別、家族全員分を振り分けて整理することにしました。

皆、成人してしまいましたが、写真にはまだまだ幼い顔があり、ついつい見入ってしまい、手が止まりあの時はこうだったとか思い出にふけりながら、懐かしく心癒される時間を過ごしました。今度、子どもたちが帰省した折には、皆でもう一度、写真を見ながら語り合いたいと思います。

まだまだ終息を見ないコロナ禍ですが、うつらない、うつさないを意識して気をつけて生活していきたいと思えます。教会にもなかなか行けない状態ですが、今までのように皆でごミサに与れるように祈っています。

K. K

司教公式訪問 7/5

梅雨の晴れ間?! 白浜満司教様をお迎えして、堅信の秘跡と臨時の聖体奉仕者・集会祭儀司会者の任命式が執り行われました。



司教さまのお話の中から・・・

新型コロナウイルスの得意技は何だと思いますか?・・・それは、人を離すこと。しかし、私たちは体が離れていても繋がっているということを、教会として大事にしないとイケません。そんな私たちに、イエスさまが今日呼びかけていることを、もう一度心に留めたいと思います。

どんな言葉が今日心に響いたでしょうか?

「疲れた者、重荷を負う者は、誰でもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」誰でも、わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう・・・この言葉が心に沁みました・・・と司教さま。

「その後続くイエスさまのみ言葉に注意してみたいと思います。」と、お話は続きます。

軛を負わされる・・・この言葉に気をつけていただきたい。軛というものによって私たちが繋がれるのではない。まずそこに注目したい思っています。横に繋がれているのはイエスさまです。イエスさまが私と一緒にパートナーになってくださる。素晴らしいことですね。一頭バラバラだと、力が半分です。二頭繋がれると二倍以上の力が出ます。イエスさまに繋がれると私たちはとても力強いしっかりとした歩みを続けて

いくことができる。・・・このように軌をとらえることができます。

イエスさまのおっしゃっている柔和と謙遜この二つのもの、この二つの徳義、これが私たちとイエスさまと繋がっているのです。

イエスさまは物事を進めていくために一番大事なことは、柔和。力で押さえつけないこと。話し合っ寄り添って一緒に考えながら物事を解決すること。・・・これがイエスさまの望んでいることです。

謙遜ということは自分の力に頼らないこと、神さまの力に信頼することと置き換えることができます。

皆さんの安らぎを願っているのは神さまです。神さまが物事を解決してくださる。神さまの力の働きは、私たち人間の考えと違っています。

イエスさまは「疲れている人、重荷を負う人はわたしのもとへ来なさい。休ませてあげよう。」と、あなたの苦しんでいることは何ですか？それを全部取り除けてあげます。わたしと繋がれて一緒に行きましょう。一緒に今あなたが背負っている苦しみ十字架、これをわたしと一緒に背負いましょう。・・・神さまの力を信頼すること。謙遜であること。このことをイエスさまは今日私たちに教えてくださっています。

私たちにとっての安らぎは、この地上のいろんな悩みや苦しみから解放されて、神さまと永遠に繋がれる事。これが私たちの安らぎ。この地上で起っていることはその絆を強めるものです。神さまとの絆をこの地上の苦しみの中で、混乱の中で、もっと強いものとする。そのためにこの地上で起こることは、どんな苦しいことであつたとしても意味があること。

・・・イエスさまが私たちと一緒にパートナーとなってくださる。イエスさまと絆、イエスさまの教えを大事にしな

がら、これからの信仰生活を皆さまと一緒に、前に進めていくようにしたいと思います。

・・・心に響いた言葉がお話が、明日への導きとなりますように。(こ)

堅信式



*小笹美夏さんと小笹鈴さんは親子で堅信を受けました。



◆堅信式を終えての感想を◆

堅信の勉強を始めると聞いて最初は不安もありましたが、母と一緒に聖書を読んだり、考えたりとだんだん楽しく勉強できたと思います。堅信式はとても緊張しましたが、皆さんから「おめでとう」と声をかけてもらい、とても嬉しかったです。

信者としてはまだまだ未熟ですが、自分なりに信仰を深めていけたらいいなと思っています。

小笹 鈴

一年半前に洗礼を受けました。それから勉強からは遠のき、慌ただしい生活に追われ時間の余裕がなくなりつつ

ありました。そんなときに堅信の勉強を娘と一緒にできると聞き、とてもうれしく思いました。勉強の時間は本当に貴重な時間となり、神さまと向き合う有意義な時間を過ごさせてもらったと思います。

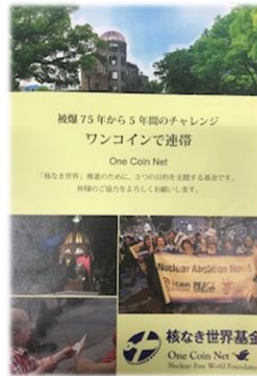
親子で堅信式を迎えられたことは、大変思い出に残るものとなりました。皆さまからは祝福のことばをかけてもらい、感謝の気持ちでいっぱいです。また、新たな気持ちでミサをとおして、また周りの方々に支えられながら、これからは大人の使徒としての使命を果たしていけたらと思います。神に感謝。

小笹 美夏



『核なき世界基金』を支援する会

被爆 75 年・被爆地から「核なき世界」を願う声を力に、また昨年11月に来日された



たフランシスコ教皇さまの訴えをふまえて核兵器を廃絶するため、広島教区白浜司教さまが筆頭となり長崎教区高見大司教さま、NPO 法人 ANT の渡部さん、核兵器廃絶地球市民集会

ナガサキの方々が運営委員としてこのプロジェクトへの働きかけがありました。これは各新聞報道にも掲載されていました。パンフレットをごらんになり 賛同にご協力をお願いします。



ディン神父のホームページ
「INORUNANA」の紹介!
<https://www.inoruhana.com/ja/>

*毎日イエスと共に・教皇と共に祈る
み言葉の典礼とみ言葉の分かち合い。
・・・癒される花々と共に・・・
どうぞ是非ご利用ください。

お知らせ

* 援助修道会の細川シスターの近況

下関で活動されていた援助修道会は、山本シスターがフランスへ移動され、また、細川シスターご自身の健康状態も不安がありましたので、一人でこの地での修道会活動は困難となり、下関の共同体は5月に閉鎖されました。

今、細川シスターは広島大学病院で治療中です。

信徒の皆さま、洗礼の準備や初聖体の準備で、お世話になったシスターのご快復のためにお祈りください。

* 「聖ザビエル上陸記念碑・平和の祈りの集い」8月開催は中止。各自、お祈りください。

記念碑設置時から尽力された長府教会の故江後栄三氏のご遺志により、記念碑が改めて整備されています。唐戸方面にお出かけの際はお立ち寄りください。

記念碑管理委員会